

登録コード	SE502300	開講年度	2026				
授業題目	生体生物学特論Ⅱ					担当教員	柴田 直樹 他
英文授業名	Topics in Biochemistry of Living Body Ⅱ					副担当	高梨 功次郎・小笠原 慎治・坂本 勇貴
単位数	2	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学年	3年
講義室				授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	選択
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ						
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の各分野における専門知識					⇔	専門分野の教科書の輪読や論文講読を行い、専門分野の知識を修得する。
	【2023年度以降カリキュラム対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力					⇔	専門分野で用いられる研究手法を習得し、その手法を用いることでどのような研究を行なうことができるかを説明できるようになる。
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の基礎知識と専門知識を活用して課題を発見し取り組み、その成果を社会に役立てる力					⇔	専門分野の研究内容を深く理解し、課題や問題点について説明できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	輪読会、セミナー等に参加し、分担発表し、質疑応答に参加する。また、輪読会、セミナー、研究データ検討会等での発表内容や特定のテーマについてレポートを提出する。輪読会、セミナー、研究データ検討会は、毎週行う。また、野外あるいは室内の実験を適宜集中で行う。						
(5)授業のキーワード	専門知識と応用力						
(6)授業計画	ミクロ分野のの教員全員が担当する。 授業計画については前期に行われるコロキウムで各教員から指示がある。最後の時間に授業アンケートをおこなう。						
(7)成績評価の方法	輪読会、セミナーへの出席状況（積極的に参加したか、質疑応答にどう関わったか等）およびレポートを総合評価する。						
(8)成績評価の基準	各研究室のセミナー等において、次の4つのレベルで評価する。(I)授業で解説、指示した内容の論文や原書を英文で読み、理解する事ができ、(II)その内容を分かりやすく説明することができ、(III)さらに専門性の高い内容を含む別の論文や資料を収集し、情報を統合でき、(IV)さらにそれらの情報を基に自分の見解を分かりやすく提示できるレベルに到達している。これらの全てが満足されていれば、「卓越している」、(III)レベルであれば、「かなり上にある」、(II)レベルであれば、「やや上にある」(I)レベルの場合は「水準にある」。						
(9)事前事後学習の内容	これまで受講した講義で学習したテーマと比較して、セミナー等で扱う内容の何が同じで何が違っているのかをまず整理すること。次に、過去に学習した事と同じテーマについて取り上げてある場合は、テーマの解説の仕方や見方の違いがどこにあるのか、解説の仕方や見方がなぜ違っているのかを整理・理解すること。まったく新しいテーマについては、これまで自分が蓄積した知識と矛盾はないか、なければこれまでの知識とどのように関連しているのかを理解・整理すること。理解や整理をする際、出てくる新しい概念や用語について、専門書等で調べ、復習することがその助けになる。						
(10)履修上の注意	開講曜日時限は教員毎にまちまちである。また講義室の関係で夕刻開講する場合もあるので、開講については掲示等を確認すること。仮配属以外の教員の講義を選択することは可能であるが、単位数は2を越えない。選択した場合は必ず出席すること。欠席がちな場合は履修を断ることがある。						
(11)質問,相談への対応	各教員が個別に対応の仕方を各学生に連絡する。						
【教科書】	各教員が指定する						
【参考書】	各教員が指定する						